「是」にかんする若干の疑問

川 上 久 寿

「是」にかんする若干の疑問とはわが国で出ている中国語語法書の「是」の説明にたいする若干の疑問ということである。

私はさきにソ連において50年代末から60年代のはじめにかけて発表された「是」の研究論文を紹介した。それは今から二十数年も前のものとは思われないほど現在でもなお立派に通用するものであり，新鮮さをもっている。それには人をして頷かしめるものが許多あり，私のように不勉強なものは大いに啓発されたものである。それにつけてもわからないのは，わが学会の主流の「是」にたいする見方，考え方である。それにつき私の疑問とするところをわりと最近にわが国で出版された中国語語法の書物でみてゆくことにする。

ひとつは，«中文語法»（大修館書店，1970）である。この書物の判断詞 shi ‘是’ (2) の個所には次のように書いてある。

「描写・叙述陳述に shi が加わると，判断のニュアンスが濃くなる。

你是打了他？

可不是，我是有点儿累了。」

この原文には拼音字母がついているがこの引用では略した。またこのほかにもまだ例文があげられているが，それも略した。私は形容詞と動詞の前に「是」のあるばあいの説明を求めたかったのだけれど残念ながら期待はずれだった。「描写・叙述陳述に shi が加わると，判断のニュアンスが濃くなる」とはどういうことか，私にはわからない。形容詞述語文，動詞述語文にも淡いながら判断のニュアンスがあるということなのだろうか。この書物は「是」のもつ区別・強調的働きについては一言もふれていない。「是」のそういう働きを否定しているのかもしれないが，私には納得がゆかない。

「是」には明かに区別・強調的機能がある。その色々なばあいについては後に記す。

次に《中国語と英語》(大原信一著，中国語研究学習双書，第14巻，光生館，昭和48年）の「是」にかんする説明を見てみよう。

この書物の「是」と動詞文・形容詞文という個所には次のように見える。

(1) 「是」による強調

「是」は動詞の一種で，とくに「判断詞」とよばれる。これに比較的近いのは英語の be である。be を純粋な連結詞 (copula) とすれば，「是」は be と同じような連結詞的なはたらきをしながらも，この動詞の本来的な意味をも合わせもっている。

「是」の基本的用法は，名詞述語文において後続の名詞と「複合述語」を構成し，「主題がどんなものか」，「どんな範疇に属するか」の判断をすることである［新辞典，74頁］。

中国語の動詞・形容詞はそれぞれ自分自身で述語になりうるが，その前に「是」がおかれることがある。この場合も「是」は後続する動詞・形容詞とともに複合述語を構成し，「主題に対してとくに強い関心をもって，その性状・動作を判断している。」［同上］。

a) 対　照

1. 他是笨，不是坏。
   He is stupid, not wicked.
2. 他的个儿是很大，不过身体不大好。
   His build is quite big, only his health is not very good.
3. 我是劝你，不是骂你。
   I am giving you advice, not scolding you.
4. 我現在是説話，不是打架。
   I am now talking and not quarreling.

強勢のおかれない「是」・「不是」は，ある種類の対照を示すために現わ

れる。強勢のおかれる場所の違いによっては，次のような違いがみられるという［Grammar 721 頁］。

5．他是累，不是困。（対照）
He is tired, not sleepy.

6．他是累，不是不累。（主張）
He *is* tired, not untired.

5では「累」と「困」を並べて，意味上の重点は両方にかかっている。6では「累」をつよく主張する。

b）強　意

1．他是傻嘛。
He *is* stupid!

2．这本書是很有意思。
This book *is* very interesting.

3．他是今天来。
He *is* coming today.

つよい強勢をもつ「是」は次にくる語句を強調し，その文が「主張」であることをはっきり示す。つよく下降調に発音される場合の「是」は，英語の is に重い強勢を与えるのとよく似ている。

4．他是明天去。
He is going *tomorrow*.

5．他不是明天走。
He is not leaving *tomorrow*.

6．他明天是到中国去。
He is going to *China* tomorrow.

7．不是我不要来，是他不让我来。
Not that I didn't want to come, but (it was that) he didn't let me come.

「是」はまた4，5，6のように英語の強調形式 it is ... that とよく似た

方法で，次にくる語句を強調する。

他是今天来。

It's today that he's coming. —— He's coming *today*.

7は「是」が it is that ... (「不是」なら not that ...) のような意味で，文頭におかれている場合である。

以上が《中国語と英語》の「4.「是」と動詞文・形容詞文」の「(1)「是」による強調」の全文である。

さきにみた《中文語法》が「是」の区別・強調的働きを全く無視しているのにたいし，《中国語と英語》はかなりの程度「是」の区別・強調的働きに説明を加えている。《中国語学新辞典》も強調の働きは認めている。もしこの働きを無視して一概に判断詞として「是」の語法的働きを初学者に教えるならば，学習者は中国語を読むにせよ書くにせよ，すべての形容詞述語文，動詞述語文に「是」を加えることにもなりかねない。それは初学者に混乱をひきおこさせるに違いなかろう。《中文語法》の筆者がコトーワの批判する「是」の同一性の理論に立つのは一向に差支えないことだが，「是」の強調的働きに一言半句もふれないということは私にとってどうしても腑におちないことであるばかりか，学習者にたいしても不親切ではあるまいか。

そこで私は中国語の教師として初学者のために「是」の区別的・強調的働きについて述べなければならない。

上に引用した《中国語と英語》からの七つの例をこの本の著者大原教授の言葉『つよい強勢をもつ「是」は次にくる語句を強調し…』によって見ると強調される語句は次のようになる。1では「傻」，2では「很」，3では「今天」，4では「明天」，5でも「明天」，6では「到中国」，7では「我」と「他」となるはずである。しかし筆者の意図がそうでないのは明かである。1，2，3は除外している。それは1では，「他是傻嘛。」He *is* stupid! 2では「这本書是很有意思。」This book *is* very interesting. 3では，「他是今天来。」He *is* coming today. となっていて，漢語では是，英語では is が強調されているからであり，このあとさらに大原教授の『つよい強

勢をもつ「是」は次にくる語句を強調し…』という言葉がつづいて，その例として 4，5，6，7 の例があげられているからである。つまり，1，2，3 は「是」が後続する動詞・形容詞とともに複合述語を構成し，「主題に対してとくに強い関心をもって，その性状・動作を判断している」いわゆる判断詞としての「是」の例としてあげられていることは自明のことである。そうすると，おかしなことになる。3 の「他是今天来。」は主題，つまり「他」に対してとくに強い関心をもって，その動作「来」或いは「今天来」を判断している。ところが，4 の他是明天去。He is going *tomorrow*. は英語で *tomorrow* とイタリック体になっているのを見てもわかるように「明天」が強調されている。どうして 3 のばあいは「是」が強調され，4 のばあいは「明天」が強調されるのか。もし他の例，たとえば「我是今天来。」「我是明天去。」というようなばあいはいったいどういうことになるのか，4 のばあいは「是」がつよい強勢をもち，3 のばあいは「是」が軽声だということになるのだろうか。

ここで，大原教授の引用された《中国語学新辞典》（大原教授にならって，以後《新辞典》と略す）を見てみよう。この《新辞典》はわが国の中国語学界を代表する権威あるものと称して差支えないものである。そこで世界中の中国語学者に周知していただきたいために判断詞の項目にかんする記述を全部次に引用する。

判断詞 pànduàncí［判断詞・連結詞・繋合詞］［copula］

判断詞は，話し手が主題に対して強い関心をもって，ある判断をくだす時に用いられる語であり，「是」の一語のみである。「判断詞」というのは，《初中課本・漢語》が使っている用語で，動詞の付類となっている。

「是」の文法的特徴は次のとおりである。

(1)　単独で文をなし，問に答えることができる（「这是你的嗎？　是。」）。

(2)　否定には「不」を用い，肯定・否定の重ね方式で疑問を表わす。

(3)　動詞の各種の変化形式をもたない。

「是」には次のような用法がある。

1）a.「我是好人。」

b.「過魯南抗日遊擊区時，正是夏天。」

上文の「是」は，後続の名詞と合成謂語を構成し，a では主題がどんなものかの判断を，b では主題がどんな範疇に属するかの判断をしている。

2）a.「他也是難受啊」「誰也不是天生下来就壊！」

b.「天下是変了，変了！」「大哥！是發癲子吧？」

a・b における「是」と後続の形容詞・動詞とで構成された合成謂語は，主題に対してとくに強い関心をもって，その性状・動作を判断している。この場合「是」は重読される。

3）「就是你胆子小！：「是」が文頭にくる場合で（この例では，「是」の前にさらに「就」がある），「就是」は「你胆子小」を強調している。

4）「説得是啊！」：文末にくる場合で，適正を表わしている。

5）「街上全是泥。」：存在を表わす。

6）「您就是这一句呀？」：主題（您）と謂語（这一句）とが同一でないが，これは中国語の簡素化された表現で“あなたは，それをいいたかったんだね”という意味。

7）「汽車来来往往有的是…。」：「有的是」は同様に使われる「多的是」とともに「多」の意味を表わす。

ところで，「是」は語法上“判断詞”のほかに“繋詞”（王力《中国現代語法》・“同動詞”（黎錦熙《新著国語文法》）・“動詞”（科学院語言研究所語法小組《語法講話》）などというとらえ方もあるが，これらはいずれも現象の説明に論理的難点をもっている。すなわち，“繋詞”は，用法 3・4 のように前か後かに連繋するものがないものの説明がむりになるし，“同動詞”（英語の“be”動詞）は，「是」の後に動詞がおかれる場合も多い中国語にはぴったりしない。「動詞」とする《語法講話》では，「是」の後の名詞・代詞を賓語としながら，後に形容詞・動詞がきたときには，「是」は「的確・確実」の意味だといっているだけで，それがどんな範疇に属するかはまったくふれていない。

以上が《新辞典》の述べるところである。《新辞典》を読みなおしたうえで，また《中国語と英語》にもどろう。強意の個所で4のばあいは「是」がつよい強勢をもち，3のばあいは「是」が軽声だとすれば，《新辞典》の説くところとくいちがいが出てくる。《新辞典》は形容詞・動詞の前にある「是」は重読されるといっているからである。《中国語と英語》が《新辞典》に拠って書かれているとすれば，これまたおかしなことになる。私にわからないのは以上のような点である。ご教示を賜われば大変ありがたい。

それにもうひとつ私によくわからないのは，「つよい強勢をもつ「是」は次にくる語句を強調し…」の語句である。これを語と句と解釈すれば，つまり，句を構成する言語単位としての語と文を構成する言語単位としての句と解釈すれば，4，5，6，7の例で強調される語句は，どれかという問題である。4のばあい「明天」とされているが，「明天去」でも差支えなさそうにみえる。5のばあいも同じく「明天」と「明天走」，6では「到中国」と「到中国去」とみられるし，7のばあいになると「我」と「他」であって，「我不要来」や「他不让我来」は語句でなく文であるから強調されない。以上のようなことになるのではあるまいか。

ここでソ連の中国語学者ア・エフ・コトーワ教授の説を思いおこす必要がある。このひとは次のようにいう。

小吳，是你回来了？　是我。

この文で疑問を表わす基本的方法はイントネーションである。疑問文で疑問を表わすのは常に重読或いは特殊な補助詞である。この文で疑問の意味の中心になっているのは「你」である。それはその前にある「是」によって区別される。「是」がなければ疑問の意味の中心は「你」か「回来了」になる。しばしば重読は述語にある。…

したがって，文中に補助詞「是」のあるばあい文はただひとつの解釈をもつ，つまり，その前に「是」のある文の成分が意味の中心になる。したがって，「是」の役割はその前に「是」のある文の成分を区別することにある。

以上がコトーワ説である。この説に拠って《中国語と英語》の強意の例七つをみてみると，1は「傻」，2は「很」，3は「今天」，4は「明天」，5は「明天」，6は「到中国」，7は「我」と「他」になる。1，2，3は別として，4，5，6については両者の見るところは一致し，7だけがちがう。英文からみると，強調されるのは「我不要来」と「他不让我来」のようだけれども，これらは語句ではなく文である。語句とはいつたい何か，それが私にはわからない。

これに関連しておもしろいことを望月八十吉教授が書いている。望月教授はその著書《中国語学習のポイント》（昭和45年，光生館）中，「是」との関係の項で次のようにいう。

「这是書。」のように名詞が述語になっている場合には「是」を省略できませんが，動詞（あるいは形容詞）が述語になっているときには，普通「是」を使いません。

① 我今天去。

② 这个很好。

しかし「是」を使うこともできます。ただし「是」をどこに入れるかによって，〈は〉を使うか〈が〉を使うかが決まります。

③ 我是今天去。〈私は今日行きます〉

③′ 我不是今天去。〈私は今日行くのではありません〉

④ 今天是我去。〈今日は私が行きます〉

④′ 今天不是我去。〈今日は私が行くのではありません〉

⑤ 是这个很好。〈これがよいです〉

⑥ 这个是很好。〈これはたしかによいです〉

③～⑥からわかるように，主語が「是」の前にあれば〈は〉となり，後にあれば〈が〉となります。そして意味上の重点は「是」の後の要素にあります。（傍点は川上）望月教授が要素といっておられるものはコトーワのいう成分とおなじことで член предложения，英語の part of the sentence のことであり，私は望月説に賛成する。

そこで，もういちど7についてみると，〈私が来たがらないのではなく，かれが私を来させないのです〉ということになり，「私」と「かれ」が強調されることになる。したがって，《新辞典》の3）「就是你胆子小！」という例で，「就是」は「你胆子小」を強調しているのではなく，「你」を強調しているのである。このように名詞，代名詞が強調される例をあげればいくらでもある。たとえば，

1．毛主席啊，毛主席！　是您，把一个在旧社会无依无靠的苦孩子救出了苦海：是您，把一个不懂事的娃娃培養成為共产党員。（迎着朝阳，人民文学出版社，1975，北京，44頁）

2．我変了？　不！　是你変得头上出角了！（新課堂，上海人民出版社，1974，上海，4頁）

3．邵参謀！　是…是你回来啦！（同上，7頁）

4．寒冬腊月，是乡亲們掩护王彩兰搭上了一条魚船，星夜飄泊到了江海島，剛逃难到河北村，大興就落生了…是素不相识的老貧农阿林伯把母子倆从破庙里接到自己家中，供養着；…（同上，134頁）

5．我了解小立，他以前不是这种态度，是張仁在搗鬼。（同上，148頁）

6．望着这一群朝气蓬勃的青年，我不禁肃然起敬：是他們，為建設这原先荒芜的江滩貢献出自己宝貴的青春！（同上，172頁）

7．我們是中国人民解放軍，是你們自己的队伍回来了。（鋼鉄洪流，上海人民出版社，1973，上海，204頁）

8．你忘了？　四年前，是你带人烧了我家的漁船，是你杀死了我的父母。（同上，211頁）

9．他突然想到会不会是原料成分发生了変化呢？（同上，339頁）

10．杜子強突然站起，正要发作，一看面前站着是自己的師傅耿福坤，便怔住了。（珍泉，上海文芸出版社，1973，上海，9頁）

以上の例のうち，1の「是」が「您」を強調していることは明かである。「毛主席啊，毛主席！」は呼びかけの言葉であって，主語ではない。「毛主席是您」では文をなさない。「您」のあとにはなお逗号があるから「您」の強調

されていることは明明白白である。2の「是」はコンテクストからみて「你」を強調していることがわかる。3の「是」はコトーワが引いた例「小吳，是你回来了。」と同様である。4のはじめの「是」は「寒冬腊月」を主語としていないことは明かである。「乡亲們」を強調する。「是素不相识的」の「是」は形容詞の「素不相识的」を強調する。5の「是」も文脈から「張仁のやつがおかしいのだ」ということがわかる。6の「是他們,」は1のばあいとおなじ。7では「我們」が「是你們自己的队伍回来了」の主語になるはずがない。8の「是你」も「おまえこそが」といっているのであって，「是」が判断詞で「你」や「四年前」が主語ということにはならない。9では「原料成分」は確かなはずなのだが，「その原料成分が」の意であることは文脈でわかる。10では「自己的」が強調される。「是」が判断詞ならば「站着」の次に「的」がくるはずである。

以上に名詞・代名詞を強調する「是」の例をあげた。次には形容詞・動詞を強調する「是」の例をあげよう。

1. “老辛大哥，有件事你还記得吧！ 那年你們进山，有人給老罗头撂下一包山参，有这么回事吧？” 老辛头尋思了一下，連声説：可不！ 是有这么回事。(千重浪，人民文学出版社，1975，北京，211頁)

この例では「是」が「有」という動詞を強調している。「そういうことがあったろう？」という問いにたいして「たしかにそういうことがありました」といっているのであって，「是」と「有」が合成謂語をつくり，主題に対してとくに強い関心をもってその性状・動作を判断しているのではない。そもそも主題がないのにとくに強い関心をもてるはずがない。

2. “我是説你剛回来，家里又只剩媽一个人”。(同上，221頁)

このばあいなど「我」という主題にたいして「是説」という合成謂語はどういう性状・動作を判断しているのか。「是」が「説」を強調しているとみたほうが妥当ではあるまいか。

3. 你是説，我対鉄岭大队的看法嗎？(同上，378頁)

この例などは名詞の強調の「是你,」の動詞版とみてよい。

4．不，我也没見过。是听我們厂里来这里看过病的老師傳説，有个魯明的眼科医生，本事大，态度好。（珍泉，上海人民出版社，1973，上海，327頁）

この例でも「是听」の主題が見えない，主題に強い関心をもつ以上は主題があらわれていなければならぬはずであろう。

5．胡大文　小方，真的已経長膜了嗎？

方秋英　是長膜了。…（同上，368頁）

このばあい主題は影も形もない。

6．郑指揮的車开得是好呀！（新課堂，上海人民出版社，1974，上海，98頁）

この例では「車」が主語で主題，「开」が述語で「是好」は「得」によって導かれた補語とみるべきではなかろうか。このばあい「是」は「很」や「確実」の働きとほぼおなじである。

次には形容詞の例をあげる。

1．唐华　（高興地）白厂長，我們的方案你看了？

白显舟　看过了，問題不少吧？

唐华　問題是不少，可我們都訂出了具体解決的措施和办法。（剛鉄洪流，上海人民出版社，1973，上海，17頁）

この例など判断とみてもよいかしれないが，強調とみたほうが文脈からして至当と思われる。

2．馮濤　（摇头）活的不易抓住！…

小陶，是不易，…（同上，133頁）

この例ではとくに強い関心をもたれるべきはずの主題はない。また合成謂語だとすれば「不」という否定の副詞は謂語の前にくるはずなのに合成謂語の真中にあるのはどうしたことだろう。この例などは「主題に対してとくに強い関心をもって，その性状・動作を判断している」ものとはいえない。

以上に主として名詞・代名詞・動詞・形容詞が「是」によって区別・強調されるばあいをみた。強調されるものは「是」の次にある文の成分であるから介詞構造や副詞その他のものもその中に含まれる。その例をあげてみよ

う。

1．天暗看不清去向，估計是往山那边跑去了！（珍泉，236頁）

この文章は，馬の逃げた方向を尋ねた人に対する答である。このばあいは文脈上「往山那边」という介詞構造が強調される。

2．我是為你着想。（大寨人的故事，上海人民出版社，1973，上海，6頁）

3．我是把話説尽了，听不听在你！（千重浪，251頁）

2も3もこの文章だけを見ずに文脈からみれば介詞構造の強調されているものと思われる。

4．今天重温毛主席这一教导，是多么令人深思，…（千重浪，265頁）

5．我看你是过分緊張了。（珍泉，367頁）

6．二十年来，我是真想你啊！（珍泉，57頁）

7．近来，我感到你的思想是有些倒退了。（新課堂，123頁）

4，5，6，7は副詞を強調している「是」であるが，《新辞典》などの筆者によって判断詞とされているものである。

このほか「是」は助動詞，持続継続を表わすプレフィクスの「在」や疑問詞などの前にもつく。たとえば，

1．看样子鬼子明天是要来。（礦山风云，上海人民出版社，1972，上海，153頁）

2．問得有理，是該好好盤問盤問他。（千重浪，499頁）

3．我是在执行任務。（珍泉，190頁）

4．你今天是怎么了？（同上，192頁）

1では「是」が「要来」，2では「該好好盤問盤問」を，3は「在执行」を，4では「怎么了」を強調する。

「是」はまた語尾として副詞につくから，そのばあいと強調のばあいと区別のつかないことがしばしばおきる。「簡直是做梦」という文で，「簡直是，做梦」か，それとも「簡直，是做梦」であるかは発音をしなければわからない。しかし次のような文では明瞭に区別されている。「現在，是我們趕不上你。」

最後に，コトーワ教授にお尋ねしたいことがある。それは次のような例のばあいどんな成分が強調されるのかということである。

你是在为誰做貢献，為誰度青春？（珍泉，207頁）

「在」か，「在为誰做」か，それとも「在为誰做貢献」か。「着」は動詞の後に密着していてその間に他の成分の入ることを許さないが，「在」はこの例のように「为誰」という介詞構造を動詞の前においている。このように動詞にたいして密着性のない「在」が「是」の次にあるときは「在」の次に位置する成分つまり「为誰」が強調されるのではなかろうか，それは次にくる「为誰度青春？」によって推察される。こういう例はほかにないわけではない。

我以为是在为你打抱不平，原来却是抱住了資产阶級这条命根子啊。（珍泉，362頁）

これはあくまでも私の仮説である。大方のご教示を賜わりたい。